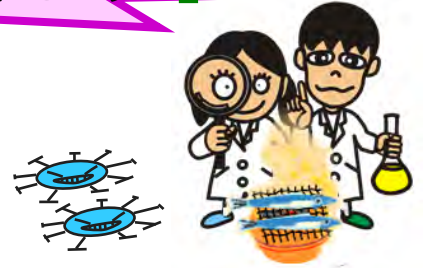


# 感染症に気をつけよう!

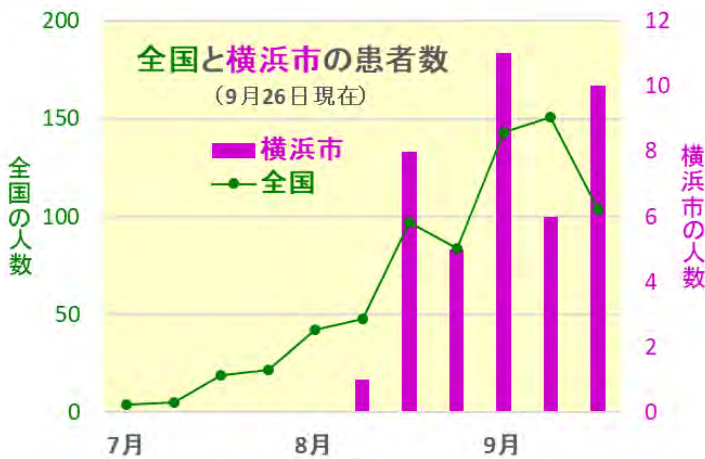
2018年【10月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号】 ← クリック
風しん**	多発	増加	7月下旬から、 <u>全国で急増*</u> しています。流行は首都圏から全国に拡大しつつあります。【'18.9号】
A型肝炎*	散发	横ばい	ウイルスに汚染された食品、性的接触などによって感染します。 <u>報告が多い</u> 状態です。【'14.4号】

## 今、気をつけたい感染症 風しん



市内でも8月下旬から41人の報告がありました。30代から40代の男性が多くなっています。

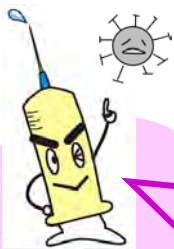
万一、風しんを疑う症状(発熱・発疹・リンパ節の腫れなど)が出たら、必ず事前に医療機関へ電話して、指示に従って受診しましょう。

妊婦が感染すると、お腹の赤ちゃんにも感染して、心疾患・難聴・白内障を主な症状とする先天性風しん症候群\*\*になる可能性があります。

予防にはワクチン\*\*が有効です。

生まれてくる赤ちゃんを守るためにも、予防接種を受けましょう。(妊娠中は受けられません。)

横浜市風しん対策事業も実施されています。



【参考ホームページ】

\*:国立感染症研究所 \*\*:厚生労働省 [横浜市衛生研究所](#) 感染症・疫学情報課 [横浜市感染症情報センター](#)】